

専攻等		ディプロマ・ポリシー
工芸科学研究科		<p>大学院工芸科学研究科では、「教育研究上の目的」に掲げた人材育成の目的を達成するために各専攻が定めたディプロマ・ポリシーに則り、これからの科学技術の進展や社会の要請に応え、21世紀の産業と文化を創出する国際的理工系高度専門技術者(Tech Leader)、研究者等の高度専門職業人となり得る人材であると認められれば、博士前期課程では「修士」、博士後期課程では「博士」の学位が授与されます。学位に付記する専門分野は、修士にあっては専攻毎に定められており、博士にあっては教育研究の内容によって学術もしくは工学の学位が授与されます。</p> <p>博士前期課程では、「21世紀の社会を切り拓く、柔軟で応用力があり国際的に通用する高度専門技術者の養成」という人材育成の目的に則った、高度な専門的知識・能力、それらの柔軟な応用力に加えて、実践的な外国語運用能力が求められます。修了の要件は、当該課程に2年以上在学し、専攻毎に定める単位数以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格することです。在学期間に関しては、特に優れた業績を上げたと認められれば、当該課程に1年以上の在学で修了が認められることがあります。</p> <p>博士後期課程では、前期課程の修了に必要なとされる能力に加え、「自立して研究活動が行え、国際舞台で活躍できる研究者、開発技術者等の養成」という人材育成の目的に則った、創造性豊かな優れた研究・開発能力の修得と国際経験が求められます。修了の要件は、当該課程に3年以上在学し、16単位数以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験に合格することです。在学期間に関しては、優れた業績を上げたと認められれば、当該課程に1年(修士課程を修了した者)にあっては、博士後期課程における1年以上の在学期間と修士課程における在学期間を合算して3年以上)の在学で修了が認められることがあります。</p>
博士前期課程	応用生物学専攻	<p>「教育研究上の目的」に定める人材を育成するため、研究科のディプロマ・ポリシーに加えて、本専攻では、次のような能力の修得を目標とします。</p> <p>A. 生物の構造と機能を理解し、分子(遺伝子・タンパク質)から個体・生態系レベルまでの幅広い生命科学の領域に関する高度な専門知識を身につけている。</p> <p>B. 多様な生命現象に対して鋭い着眼点を有し、社会における諸問題に対して、柔軟な発想力と思考力で、データに基づきバイオテクノロジーを駆使できる能力を有している。</p> <p>C. バイオテクノロジーの技術者・研究者としての確かなプレゼンテーションができるだけでなく、かつグローバルな展開が出来る能力を身につけている。</p> <p>D. 自ら新しい課題を発見でき、柔軟な思考力と関連分野の知識と技術も統合できる総合的視野を有し、リーダーシップを発揮して課題を解決することで、バイオ産業に貢献できる能力を有している。</p>
	材料創製化学専攻	<p>「教育研究上の目的」に定める人材を育成するため、研究科のディプロマ・ポリシーに加えて、本専攻では、次のような素養の修得を目標とします。</p> <p>A. 高分子、セラミックスなどに関連した幅広い知識を持ち、それらを基に新素材・新材料を開発することができる専門的能力を有している。</p> <p>B. 知識を応用する能力と幅広い視点から問題を洞察する能力を有している。</p> <p>C. 研究者・技術者としての社会に対する自覚、高い倫理性、人間的に広く深い素養ならびに国際性を有している。</p> <p>これらの素養を身につけ、修了に必要な在学年数、単位数を満たし、修士論文の審査及び最終試験に合格すれば、「修士(工学)」の学位が授与されます。修士論文の審査、最終試験では、論文の学術的意義・新規性・独創性・応用的価値の有無だけでなく、申請者の専門知識・研究推進能力・説明能力についても判断基準となります。</p>
	材料制御化学専攻	<p>「教育研究上の目的」に定める人材を育成するため、研究科のディプロマ・ポリシーに加えて、本専攻では、次のような能力の修得を目標とします。</p> <p>A. 材料物理学、材料物理化学、高分子及び無機物性化学並びに繊維関連科学に関する十分な基礎知識を有する。</p> <p>B. 有機、無機及びハイブリッド材料の構造・物性の評価及び規格化から理論的モデルの創出にわたる物性制御の革新を実現する应用能力を有する。</p> <p>C. 材料開発に携わる研究技術者として人間的に広く深い素養と自覚、豊かな国際性を有する。</p> <p>これらの素養を身につけ、修了に必要な在学年数、単位数を満たし、修士論文の審査および最終試験に合格すれば「修士(工学)」の学位が授与されます。修士論文の審査、最終試験では、論文の学術的意義・新規性・独創性・応用的価値の有無だけでなく、申請者の専門的知識・研究推進能力・説明能力も判断基準となります。</p>
	物質・材料科学専攻	<p>「教育研究上の目的」に定める人材を育成するため、研究科のディプロマ・ポリシーに加えて、本専攻では、次のような能力の修得を目標とします。</p> <p>A. 原子・分子から高度な機能と性能を有する材料創成を目指すボトムアップ法の理念に基づいて、分子レベルからの材料設計と精密合成、さらには、構造変換や分子組織化に関わる高度な専門的能力を身につけている。</p> <p>B. 新物質・新材料の開発にあたり、高い倫理性と責任感をもって研究開発を行い、人と自然が共生可能な持続性のある社会の構築に貢献できる能力を身につけている。</p> <p>C. 機能物質創成に携わる研究者・技術者として、国際的な広い視野と研究感覚を体得している。</p> <p>これらの素養を身につけ、修了に必要な在学年数、単位数を満たし、修士論文の審査及び最終試験に合格すれば「修士(工学)」の学位が授与されます。修士論文の審査、最終試験では、論文の学術的意義・新規性・独創性・応用的価値の有無だけでなく、申請者の専門的知識・研究推進能力・説明能力についても判断基準となります。</p>
	機能物質化学専攻	<p>「教育研究上の目的」に定める人材を育成するため、研究科のディプロマ・ポリシーに加えて、本専攻では、次のような能力の修得を目標とします。</p> <p>A. タンパク質や核酸・多糖・生理活性物質に関連した幅広い知識を持ち、生体関連物質の機能性・作用機序の解析、新物質の創出、計測技術の開発ができる高度な専門的応用能力を有している。</p> <p>B. 人類が対峙する課題解決をめざして、知識と技術を統合し総合的視野から問題を洞察する能力を有している。</p> <p>C. 研究者・技術者としての社会に対する自覚、高い倫理性、人間的に広く深い教養ならびに国際性を有している。</p> <p>これらの素養を身につけ、修士論文の最終審査に合格すれば「修士(工学)」の学位が授与されます。この修士論文の審査および最終試験では、主副指導教員によって論文の学術的意義、新規性、独創性、および応用的な価値だけではなく、申請者の基礎学力、専門知識、プレゼンテーション能力等が厳正に評価されます。</p>

専攻等		ディプロマ・ポリシー
博士前期課程	設計工学域	電子システム工学専攻 「教育研究上の目的」に定める人材を育成するため、研究科のディプロマ・ポリシーに加えて、本専攻では、次のような能力の修得を目標とします。 A. 電気電子工学に関わる広汎な研究開発分野の基礎を理解し、その基礎知識を応用する経験を有している。 B. 問題解決能力を備え、研究開発を牽引する可能性を有している。 C. 高いプレゼンテーション力、コミュニケーション力、英語力を備え、新しい技術や分野の開拓を担える能力を有している。 これらを身につけ、修了に必要な在学年数、単位数を満たし、修士論文の審査及び最終試験に合格すれば「修士(工学)」の学位が授与されます。修士論文審査会におけるプレゼンテーションと質疑応答に基づいて学位の認定を行います。これらに加えて、以下の項目の達成が望まれます。 ① 修士論文の内容について、少なくとも1回は学会発表していること。 ② 修士論文の内容について、少なくとも1篇の論文を学術雑誌に発表済み、または発表予定であること。 ③ TOEIC試験の成績が良好であること。 ④ 海外派遣・留学あるいはインターンシップに参加していること。
		情報工学専攻 本専攻では、「教育研究上の目的」に定める人材を育成するため、研究科のディプロマ・ポリシーに加えて、次のような能力を修得していることが認められれば、修士(工学)の学位が授与されます。 A. エンジニアリングデザイン能力:限られた人的、物的、時間的資源の制約の下で、社会の要求を解決するために、リーダーシップを持って他者と協働し新しいシステムを創出できる。 B. 専門知識と応用力:コンピュータ科学(GS)およびコンピュータ工学(GE)分野の高い専門知識をもち、それに基づいて、自立的にあるいは他者と協働して、ハードウェアやソフトウェアを分析、構築することができる。 C. コミュニケーション能力:文化や背景の異なる他人や組織を相手に、専門的な内容について論理的な文章の記述、口頭発表および討論ができ、また、背景の異なる他人や組織を相手に自分の意見を的確に伝えることができる。 D. 学習習慣と情報収集・分析力:将来の社会変化に適応するための継続的な学習習慣を持ち、ICTを活用した効率的な情報収集や情報分析を行うことができる。 E. 研究技術者教養・倫理:日本および諸外国の文化理解に基づいて、研究技術者の社会的責任を認識し、倫理的に行動できる。また、自己意識・自己肯定力を持ち、率先的に行動できる。
		機械物理学専攻 本専攻では、「探究的価値創造力」を持つ高度専門技術者や研究者の育成を目的として、研究科のディプロマ・ポリシーに加えて、以下のような能力の修得を目標とします。それらの能力を身につけ、修了に必要な在学年数、単位数を満たし、修士論文の審査及び最終試験に合格すれば「修士(工学)」の学位が授与されます。修得すべき能力の判定は、最終試験で行います。 A. 高度かつ実践的な専門性:様々な物理現象を解明するための高度かつ実践的な専門性の修得。 B. 展開力と創造力:専門知識を応用した実際の工学的問題に対する理論的展開力の修得。問題の本質を理解し、旧来の限界を突破することのできる創造力の修得。 C. 国際性と倫理観:国際的自己発信能力の修得。技術者・研究者に必要な倫理観の修得。
		機械設計学専攻 本専攻では、「実践的価値創造力」を持つ高度専門技術者や研究者の育成を目的として、研究科のディプロマ・ポリシーに加えて、以下のような能力の修得を目標とします。それらの能力を身につけ、修了に必要な在学年数、単位数を満たし、修士論文の審査及び最終試験に合格すれば「修士(工学)」の学位が授与されます。修得すべき能力の判定は、最終試験で行います。 A. 先端的かつ幅広い専門性:機械工学のみならず幅広い先端的テクノロジーの理解、修得。 B. 応用力と創造力:高度な工学的知識を横断的に駆使することができる応用力の修得。革新的かつ実践的な新しい価値を創造する力の修得。 C. 国際性と倫理観:国際的自己発信能力の修得。技術者・研究者に必要な倫理観の修得。

専攻等		ディプロマ・ポリシー
博士前期課程	デザイン学専攻	<p>「教育研究上の目的」に定める人材を育成するため、研究科のディプロマ・ポリシーに加えて、本専攻では、次のような能力の習得を目標とします。</p> <p>A. 社会・地球環境の潜在課題を発見する探索力・分析力 B. 多分野の知を活かし革新的アイデアを生み出す発想力 C. 多様なアイデア群を一貫したシステムとして編集する統合力・構想力 D. 社会に還元する実装力 E. グローバルな異分野専門家との共創を促進させるデザイン表現能力と英語コミュニケーション能力 F. 対象「価値」を「キュレーション」「企画」「編集」「発信」という形式で示しうる能力</p>
	デザイン科学域 建築学専攻	<p>「教育研究上の目的」に定める人材を育成するため、研究科のディプロマ・ポリシーに加えて、本専攻では、次のような能力の修得を目標とします。</p> <p>A. 国際的な競争力を有した都市・建築の計画立案、設計、総合的マネジメントの能力を有している。 B. 歴史や環境、地域に根ざした都市・建築の保存・修復・再生、計画に関する高い知識と構想力を身に付け、総合的マネジメント能力を身に付けている。 C. デザインやまちづくりの合意形成や研究内容の社会化を意識した、高い説明能力を有している。</p>
	国際連携建築学専攻 京都工芸繊維大学・チェンマ	<p>「教育研究上の目的」に定める人材を育成するため、研究科のディプロマ・ポリシーに加えて、本専攻では、次のような能力の修得を目標とします。</p> <p>A. 英語を共通語としたコミュニケーションを円滑にできる語学能力とグローバルな視点。 B. 国際的に通用する建築計画・設計能力と都市・建築の再生・リデザイン能力。そして、これらをもとに総合的かつ論理的に思考する能力。 C. 実践・提案につなげていくためのコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力。 D. 様々な文化的背景を持つ都市・建築空間を地域に根ざして読み解く能力。 所定の修業年数である2年以上在学し、設定された教育プログラムを履修し、研究指導を受け、大学院学則および履修規則に定められた修了要件を満たすことで、修士(建築学)の学位が授与されます。英文名称は、「Master of Architecture (M. Arch.)」です。</p>
	織維学域 先端ファイブロボ科学専攻	<p>「教育研究上の目的」に定める人材を育成するため、研究科のディプロマ・ポリシーに加えて、本専攻では、繊維素材についての知識、繊維素材を利用した製品の設計・評価・リサイクル技術を有し、さらには日本の伝統技術の理解に基づいた人に優しい科学技術のありかたについての見識を持ち、テキスタイル分野における高度専門技術者としての能力を有する人材の輩出を目指しています。具体的には、次のような能力の修得を目標とします。</p> <p>A. エンジニアリングデザイン能力: 限られた人的、物的、時間的資源の制約の下で、社会の要求を解決するために、他人と協調して新しいテキスタイルエンジニアリング技術を創出することができる。 B. 専門知識と応用力: 繊維素材やそれを利用した製品の設計・評価・リサイクル技術の高い専門知識をもち、それに基づいて新たな人に優しい繊維製品を創造することができる。 C. コミュニケーション能力: 専門的な内容の論理的な文章の記述、口頭発表及び討論ができ、また、背景の異なる他人や組織を相手に自分の意見を的確に伝えることができる。 D. 学習習慣と情報収集・分析力: 将来の社会変化に自立的に適應できるための継続的な学習習慣を持ち、様々な手段を活用して効率的な情報収集や情報分析を行うことができる。 E. 技術者教養・倫理: 日本の伝統技術の理解に基づいた人に優しい科学技術のありかたを認識し、倫理的に行動できる。 これらの能力を身につけ、修了に必要な在学年数、単位数を満たし、修士論文の審査及び最終試験に合格すれば「修士(工学)」の学位が授与されます。</p>
	織維学域 バイオアルベーム学専攻	<p>「教育研究上の目的」に定める人材を育成するため、研究科のディプロマ・ポリシーに加えて、本専攻では、次のような能力の修得を目標とします。</p> <p>A. 与えられた課題を理解する能力 B. 課題解決に必要な基礎的知識・技術 C. 課題解決のために協働できる能力 D. 国際的情報収集能力</p>
	織維学域 バイオアルベーム学専攻	<p>「教育研究上の目的」に定める人材を育成するため、研究科のディプロマ・ポリシーに加えて、本専攻では、次のような能力の修得を目標とします。</p> <p>A. 与えられた課題を理解する能力 B. 課題解決に必要な基礎的知識・技術 C. 課題解決のために協働できる能力 D. 国際的情報収集能力</p>

専攻等		ディプロマ・ポリシー
博士 後期課程	応用生物学域 バイオテクノロジー専攻	<p>「教育研究上の目的」に定める人材を育成するため、研究科のディプロマ・ポリシーに加えて、本専攻では、次のような能力の修得を目標とします。</p> <p>A. 社会における諸問題に対して、課題を自ら発掘し、卓越した発想力と思考力で、バイオテクノロジーを駆使し解決できる能力を身につけている。</p> <p>B. 日本語並びに英語で的確なプレゼンテーションができる能力並びに英語により正確・論理的な論文執筆が出来る能力を身につけている。</p> <p>C. 高度な生命科学とバイオテクノロジーの知識と技術を有し、リーダーシップを発揮して課題を解決することで、バイオテクノロジーの研究者としてアカデミアとバイオ産業界でグローバルに活躍できる能力を身につけている。</p> <p>学位取得のためには、「学位論文に係る評価にあたっての基準」に基づいた審査体制と評価基準により審査が行われ、可否を判定します。</p>
	物質・材料科学域 物質・材料化学専攻	<p>「教育研究上の目的」に定める人材を育成するため、研究科のディプロマ・ポリシーに加えて、本専攻では、次のような能力の修得を目標とします。</p> <p>A. 物質・材料化学の分野で先端的な研究開発を進めるための知識と技術を身につけ、それらを活用できる</p> <p>B. 革新的な材料開発の社会的意義を深く理解した上で当該分野の開発研究を遂行できる</p> <p>C. 研究計画や研究成果を明確かつ論理的に発表し、創造的な議論を喚起できる</p> <p>D. グループを組織して当該分野の開発研究を先導するリーダーとしての素養、および実践的な外国語能力を有し、グローバルな視野にたつて当該分野の開発研究を遂行できる</p> <p>以上の能力を身につけ、修了に必要な在学年数、単位数を満たし、かつ博士論文審査及び最終試験に合格した者に、「博士(工学)」あるいは「博士(学術)」の学位を授与します。</p>
	設計工学域 電子システム工学専攻	<p>「教育研究上の目的」に定める人材を育成するため、研究科のディプロマ・ポリシーに加えて、本専攻では、次のような能力の修得を目標とします。</p> <p>A. 電気電子工学に関わる広汎な研究開発分野の学術体系を広く理解し、その知識を応用する研究力を有する。</p> <p>B. 高い問題解決能力を備え、研究開発を牽引できる力を有する。</p> <p>C. 問題解決が社会に提供する価値を最大化する方向に向けて、知の構造化、再構成をはかる能力を有する。</p> <p>D. 国際性と自己能力を広く展開するための英語力、コミュニケーション力、表現力を有する。</p> <p>これらの能力を身につけ、修了に必要な在学年数、単位数を満たし、博士論文の審査及び最終試験に合格すれば「博士(工学)」もしくは「博士(学術)」の学位が授与されます。</p>
	設計工学域 設計工学専攻	<p>本専攻では、「教育研究上の目的」に定める人材を育成するため、研究科のディプロマ・ポリシーに加えて、次のような能力を修得していることが認められれば、博士(工学)または博士(学術)の学位が授与されます。</p> <p>A. 情報工学、機械物理学、機械設計学の個別工学の分野で、具体的な「設計」活動を進めるための知識、技術および方法論を修得していること。</p> <p>B. 個別工学における上記の知識、技術および方法論に基づいて、各分野における最先端の研究活動の遂行ができること。</p> <p>C. 個別「工学」に関する知識を、企画・設計から製作、評価にいたる最先端の「ものづくり」に実際に適用・応用する設計工学(engineering design)の手法を体得していること。</p> <p>D. 情報・通信、機械システムにおける基盤技術を、国際的な視点と地域貢献の視点にたつて、戦略的に研究・開発する能力を修得していること。</p> <p>E. 各人の専門分野の対象である種々の人工物を設計・製作・評価する総合的な技能を修得していること。</p> <p>F. 工学の最先端研究を切り開くための精神力と、社会動向に鋭い感性をもち、組織を管理運営できるリーダーシップを有していること。</p>
	デザイン科学域 デザイン学専攻	<p>「教育研究上の目的」に定める人材を育成するため、研究科のディプロマ・ポリシーに加えて、本専攻では、次のような能力の修得を目標とします。</p> <p>A. デザイン学領域では、様々な社会的課題に適用可能な独自のデザイン理論・方法論を持ち、ディレクターとして異分野の専門家との混合チームを主導することができる。</p> <p>B. これらの能力を身につけ、審査付論文もしくは受賞作品に基づいた博士論文を作成する。</p> <p>C. キュレーション学領域では、美術、デザイン、建築についての深い洞察にもとづくオリジナリティのある研究論文を作成する。</p> <p>D. その成果を「企画」「編集」「ディレクション」「展示」「発信」といったかたちで社会に示す高いキュレーション能力を身につけている。</p>
	デザイン科学域 建築学専攻	<p>「教育研究上の目的」に定める人材を育成するため、研究科のディプロマ・ポリシーに加えて、本専攻では、次のような能力の修得を目標とします。</p> <p>A. 都市・建築のデザイン、遺産のストック活用とマネジメント、都市・建築の技術、環境、歴史、文化に関する理論及び応用力を身に付け、都市・建築に関する研究者として自立的に活動できる能力、あるいは都市・建築設計、再生マネジメント等に関する高度な専門業務に従事できる能力</p> <p>B. 研究成果を広く学界や社会、さらに国際社会に発信していく積極性と説明能力、研究や専門業務を遂行する上での協調性</p> <p>C. 博士論文が学術的意義、新規性、創造性、応用的価値を有しており、今後も自ら発見した課題を専門分野や関連分野への視野を拡大させつつ展開させ、学術論文に作り上げていく能力</p>

専攻等		ディプロマ・ポリシー
博士 後期 課程	繊維学域	<p>「教育研究上の目的」に定める人材を育成するため、研究科のディプロマ・ポリシーに加えて、本専攻では、次のような能力の修得を目標とします。</p> <p>A. エンジニアリングデザイン能力: 限られた人的、物的、時間的資源の制約の下で、社会の要求を解決するために、他人と協調して新しいテキスタイルエンジニアリング技術を創出することができる。</p> <p>B. 専門知識と応用力: 繊維素材やそれを利用した製品の設計・評価・リサイクル技術の高い専門知識をもち、それに基づいて新たな人に優しい繊維・テキスタイル製品を創造することができる。</p> <p>C. コミュニケーション能力: 国内外を問わず、専門的な内容の論理的な文章の記述、口頭発表及び討論ができ、また、背景の異なる他人や組織を相手に自分の意見を的確に伝えることができる。</p> <p>D. 学習習慣と情報収集・分析力: 将来の社会変化に自立的に適応できるための継続的な学習習慣を持ち、様々な手段を活用して効率的な情報収集や情報分析を行うことができる。</p> <p>E. 技術者教養・倫理: 日本の伝統技術の理解に基づいた人に優しい科学技術のありかたを認識し、国内外を問わず倫理的に行動できる。</p> <p>これらの能力を身につけ、博士に必要な在学年数、単位数を満たし、博士論文の審査及び最終試験に合格すれば「博士(工学)」あるいは「博士(学術)」のいずれかの学位が内容を鑑みて授与されます。</p>
	バリアオルベ学 専攻マテ	<p>「教育研究上の目的」に定める人材を育成するため、研究科のディプロマ・ポリシーに加えて、本専攻では、次のような能力の修得を目標とします。</p> <p>A. 研究・開発を通して問題の真因を見つけられる能力</p> <p>B. 問題解決の方法を提案できる能力</p> <p>C. 問題解決のための集団のリーダーシップをとれる能力</p> <p>D. 成果を国際的に発信できる能力</p>